

mono.*ho* file 株式会社トメダ

事業計画名

十勝農業の競争力向上を支援する
～新型レーザー加工機導入によるQCD向上



最新型レーザー加工機



歯車・オーダー部品

ニーズに即した農機具製造で 十勝の競争力アップを

日本の一大農業地帯である十勝で農機具を製造する(株)トメダ機械工業。豊富なアイデアや高い技術力を駆使し、農家の抱える悩みや課題に即した優れた農機具を次々に開発。農家からの信頼も厚い。

昨今はTPP対応に向けコスト意識の高い農家が増え、コンパクトで扱いやすく、作業効率の高い機具が求められるようになったため、薄い鉄板に加工する機会が増えた、そこで本事業では最新型のレーザー加工機を導入。より高い精度での仕上がりが得られるようになったとともに、納期の短縮も実現できた。また、従来のプラズマ機との併用で効率の良い生産体制が取れるため、年間の受注数も大きく伸ばすことができた。

十勝ブランド確立を応援したい

目標は年に1台は新製品を作ること

主に特注品を手がけてきた同社の強みは、地域の農家のニーズをきめ細かく把握し、農機具先進国のヨーロッパやアメリカの情報にも精通している留田社長のアイデア力と、それらを要望に添った形に仕上げる高い技術力。そんな同社には常に相談や情報が持ち込まれ、「1年に1台は新製品を作りたい」という目標の原動力になっている。

また、来る人口減少社会にそなえ、同社ならではのノウハウと技術を継承していくために、労働環境の整備にも力を入れ、強固な体制作りを目指している。

コンパクトな農機具を東南アジアへ

後継者不足で悩む農業にあって、少人数での作業や自動化が当たり前になっていくであろう時代。そんなニーズを踏まえつつ、日本の規模に最適なコンパクトで小回りのきく農機具を開発すべく、日々取り組みを続けている。

レーザー加工機導入で増産が可能になった今後は、そうして生まれた自社製品の売り込みにも積極的に乗り出す予定。現在すでに、農機具の大手5社にて取り扱いを受けており、道内外に販路が広がっている。さらに、農業規模が似ている東南アジアへの進出も視野に入れている。



代表取締役 留田 賢治

いま十勝の農業は生産規模は大きいですが、一次産業どまりな面があります。せっかく良い素材があるのだから、自分たちで加工、販売する三次産業まで広げられないかというのが私の夢です。日本独自のよいものをきちんとブランド化できれば、今後TPPで入って来るものにも対抗できる。農機具屋の立場から、私にできることをやっていきたいと思っています。

TOPIX かゆいところに手が 届くニッチ製品も好評

同社自信の令和の新製品”ローリンググラブ”（2個用）。これまでラップの牧草ロールが2個同時につかめるものはなかったため、反響も大きい。また、バンカーサイロの重しのタイヤを運ぶタイヤシューターも引き合いが多い。

COMPANY DATA

株式会社トメダ

TEL.0155-62-5155 FAX.0155-62-5164

<http://www.tomeda-k.com/>

住 所 北海道河西郡芽室町東芽室北1線10番地19

代表者名 留田 賢治

資本金 1,000万円

設 立 昭和56年

事業内容 農業機械